

稲生川の工事で使われた道具を体験する小学生



口蹄疫乗り越え笑顔

十和田・日本三大開拓地交流

川南町(宮崎)児童、雪に歓声

「日本三大開拓地」

として十和田市と小学生同士の交流が続いている福島県矢吹町、宮

崎県川南町の小学生40人が3泊4日の日程で同市を訪れ、15日から3市町の児童による交流が始まった。昨年発生した口蹄疫(こうてい)で最大の被害を出した川南町の子供たちは、初めて見る雪景色に歓声を上げながら、ゲームなどを通して仲

間づくりに励んだ。

十和田市民文化センターで開かれた開会式で、小山田久市長は「川南町が困難を乗り越え

られたのは開拓精神だったと思う。先人の偉大な開拓精神を引き継ぎ、未来につないでほしい」と小学生に呼び掛け、川南町の内野宮正英町長は「病気をもち込んではいけないという心配もあったが、一生懸命頑張り、川南

町を安全な地帯にできた。子供たちも楽しみにしていた」と交流の実現を喜んだ。

交流会は約1時間半、3市町の児童計60人がゲームを通して、他県の参加者と打ち解けた。その後、新渡戸記念館を訪れ、三本木原開拓について学んだ。

約70頭はすべて殺処分された。「悲しくて、心に穴があいたようだった」と当時を振り返るが、「交流会ではすぐに手をつないでくれたり、話し掛けてくれたりした。十和田は外は寒いけど、人は温かい」と話していた。

3市町の小学生は16日、十和田湖温泉スキー場でスキーを体験する。十和田市北園小5年の木下虎地郎君は「スキーをやったことのない宮崎の人に教えられる感じが楽しんでいる様子だった。」

(三好陽介)